

## ○ 各教科ごとの出題方針

国 語	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、中学生の実態にあった素材を広く求め、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の総合的な力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のバランスをとり、平素の学習活動が生かされるよう配慮した。特に、言語活動を想定した問題を通して、論理的に思考し、表現する力を十分みるようにした。</p> <p>分野別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 国語に関する知識 漢字、書体の特徴に関して、その基礎的・基本的な力をみるとともに、目的や場面に応じて話し合う際に留意すべきことについて考える力をみるようにした。</p> <p>(2) 文学的な文章 自身の趣味を理解してもらえないがゆえに、友人と距離を置こうとしていた高校生が、クラスメイトとの交流から自身の趣味を理解してくれる友人の存在に気付く姿を描いた文章により、登場人物の人物像をとらえ、主人公の心情の変化に着目して文章の内容を理解する力や、表現の特色について考える力をみるようにした。</p> <p>(3) 説明的な文章 現代の経済活動やものの価値に関する考え方を20世紀との比較により明らかにし、それに対する筆者の考えを述べた文章により、目的や必要に応じて要旨をとらえる力をみるとともに、文章全体の構成や展開について考える力をみるようにした。</p> <p>(4) 古典 一代で財産家となった藤屋市兵衛がささいなことにも知恵を働かせる姿を描いた文章により、文語のきまりや主語の読み取りといった基礎的・基本的な力をみるとともに、話の内容を的確にとらえる力をみるようにした。</p> <p>(5) 表現 文化祭での卒業生による記念講演に対して、感想やお礼の気持ちを伝える方法についての話し合いを行う場面を設定し、その際に用いた「新聞の投稿」や「資料」の内容を理解する力をみるとともに、根拠を明確にし、理由を挙げて自分の考えを適切に表現する力をみるようにした。</p>
社 会	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な学習内容についての知識、理解や、思考力、判断力、表現力及び資料活用の技能などの諸能力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の内容についてバランスよく出題し、社会的事象を総合的に関連付けて考察できるように配慮した。</p> <p>分野別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 地理的分野 「世界の様々な地域」に関しては、中国の地域的特色、イスラム教の分布、ロシアの生活・文化、EUの特徴についての問いで思考力、判断力、表現力を、東南アジアの国の位置やアメリカの農産物輸出についての問いで資料活用の技能をみるようにした。 「日本の様々な地域」に関しては、日本の気候や工業地域の特徴についての問いで思考力、判断力、表現力を、広島市の地形図の読み取りについての問いで資料活用の技能をみるようにした。</p> <p>(2) 歴史的分野 「古代から近世の歴史」に関しては、古代の税の特徴や、鎌倉時代の仏教、参勤交代の説明についての問いで思考力、判断力、表現力を、歴史上の重要な都市や世界遺産の位置についての問いで資料活用の技能をみるようにした。 「近代・現代の歴史」に関しては、近代の国際関係や大正時代の特色についての問いで思考力、判断力、表現力を、満州事変の背景となった社会事象の読み取りについての問いで資料活用の技能をみるようにした。</p> <p>(3) 公民的分野 「私たちと政治」に関しては、効率と公正の考え方、基本的人権、国会と内閣の関係、有権者増加の背景についての問いで思考力、判断力、表現力及び資料活用の技能をみるようにした。 「私たちと経済」に関しては、経済成長率の推移、供給量と価格の関係、ワーク・ライフ・バランスについての問いで思考力、判断力、表現力及び資料活用の技能をみるようにした。 「現代社会の諸課題」に関しては、大分県減災社会づくりのための県民条例を題材として、防災・減災についての問いで思考力、判断力、表現力及び資料活用の技能をみるようにした。</p>

数 学	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識、理解及び技能をみるとともに、数学的な見方や考え方をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、各領域（「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」）をバランスよく出題し、数学の事象について統一的・発展的に考える力をみるよう配慮した。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 数と式 数や文字式の四則計算、二次方程式などの基礎的・基本的な内容についての知識、理解及び計算力などをみるようにした。 規則性について考察する問題では、解決の見通しをもって求めることができる力をみるようにした。</p> <p>(2) 図形 平面図形や空間図形では、図形の性質、三平方の定理などの基礎的・基本的な内容についての知識、理解をみるとともに、証明では、論理的に考察し、表現する力をみるようにした。 また、直角三角形の回転体の体積に関する問題では、一定の手順にしたがって数学的に処理するとともに、統一的・発展的に考えて数学の事象をとらえることができる力をみるようにした。</p> <p>(3) 関数 比例、一次関数、二次関数などの基礎的・基本的な内容についての知識、理解をみるとともに、エスカレーターと階段での移動について考察する問題では、グラフを事象に即してとらえ、解決の方法を表現することができる力をみるようにした。</p> <p>(4) 資料の活用 確率の問題では、樹形図などを活用して過不足なく数えあげて求める力をみるようにした。 また、フリースローの記録を考察する問題では、資料の傾向を代表値を用いてとらえ、数学的な表現を用いて説明する力をみるようにした。</p>
理 科	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識、観察・実験の技能、科学的な思考力・表現力など理科としての総合力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、学年、分野・領域のバランスをとるとともに、仮説を検証するための実験計画を立案する力、観察・実験の結果を分析して解釈する力、文章、図、グラフ等により表現する力などを十分みるようにした。</p> <p>分野・領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 物理的領域 弦楽器や管楽器から出る音についての実験を通して、弦の長さ、太さ等を制御して、音の高さの規則性を見いだすための実験計画を立案する力や、弦楽器の実験結果を解釈し、管楽器と関連付けて、結果を推測する力をみるようにした。また、球の運動についての実験を通して、慣性や力学的エネルギーと関連付けて、現象の原因を考察する力をみるようにした。</p> <p>(2) 化学的領域 ベーキングパウダー等に関する実験を通して、測定結果をグラフ化して、反応する物質の質量に関する規則性を見いだすとともに、化学変化の条件の違いを考察する力をみるようにした。また、化学電池の実験を通して、生成する物質について、分子やイオンのモデルと関連付けて、微視的に現象をとらえるとともに、電池ができる条件を考察する力をみるようにした。</p> <p>(3) 生物的領域 自然界における生物相互のつながりに関する実験・調査を通して、自然界のつり合いに影響を及ぼす要因を見だし、生物の数量関係の変化を考察するとともに、自然界の炭素循環において微生物が果たす役割を総合的に考察する力をみるようにした。また、脊椎動物と無脊椎動物の観察・調査を通して、共通点や相違点を見いだす力をみるようにした。</p> <p>(4) 地学的領域 火山についての実験・調査を通して、火山の形や噴火活動の違いが生じる要因を、マグマの性質と関連付けて相対的な視点でとらえるとともに、地層の重なり方や広がり方についての規則性を見いだす力をみるようにした。また、寒気と暖気が接するモデル実験を通して、風の吹き方の規則性や、夏の季節風が吹く要因を、陸と海の関係性から見いだす力をみるようにした。</p>

中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な知識、英語による理解力及び表現力などのコミュニケーション能力の基礎を十分みことをねらいとした。

出題に当たっては、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の各領域にわたり、調和のとれた出題となるように配慮するとともに、語彙、文構造、語法等の知識をもとに、思考力、判断力をはたらかせて、まとまりのある文章を正確に理解したり、英語で適切に表現したりする力をみるようにした。

特に、表現力の問題については、与えられた場面や目的に合わせて自分の考えを英語で相手に伝えたり、伝統行事に関する説明をしたりするなど、コミュニケーションの視点から多様な出題となるように工夫した。また、「発表する」場面を設定し、言語活動と文法事項を効果的に関連付けた出題とした。

領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。

英  
語

(1) 「聞くこと」の領域

【1】では、イベントの日程、天気及び施設案内に関する情報を聞き取る力、対話の中で話題になっていることや具体的な内容を聞き取る力などをみるようにした。

(2) 「話すこと」、「書くこと」の領域

【2】Bでは、話し合いの流れに合わせて、自分の考えを英語で伝える力をみるようにした。

【3】では、「新入生を迎えるための英語を使った活動」や「日本の伝統行事」について英語で伝える力をみるようにした。

【4】(5)では、読み取った内容に基づいて、「環境を守るために、これから自分がやること」について、英語で伝える力をみるようにした。

(3) 「読むこと」の領域

【2】Aでは、スピーチのテーマに関する3人の中学生の対話を流れに即して理解し、内容を読み取る力をみるようにした。

【4】(1)～(4)では、卒業を控えた中学生に対する先生からのメッセージを正確に読み取る力をみるようにした。

【5】では、中学3年生が英語文集に書いた原稿の内容を話の流れに即して理解し、読み取った内容をまとめる力をみるようにした。

# ○ 各教科ごとの入試分析

## 国 語

### 1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点				特記事項 (誤答例等)	
				A	B	C	D		
【一】	問一	(1)	73.3				○	・問一(1)「蒸」や(2)「専」において不要な点画がある誤答や、(3)で「宣誓」を「宣言」と誤認しているなどの誤答が多かった。また乱雑な表記が多く見られた。漢字に関する学習では書写の学習と関連付けて丁寧に文字を書くように取り組む必要がある。	
		(2)	50.9				○		
		(3)	34.2				○		
		(4)	57.1				○		
		(5)	93.3				○		
	問二	(1)	相手の立場や考えの尊重	51.6	○				・問二(1)、(2)は「話すこと・聞くこと」からの出題であった。(2)では「ことば手帳を見て」という条件を見落とし、具体的に何をするかを記入していない解答が見られた。
(2)		相手の立場や考えの尊重	2点 37.7 1点 1.1	○					
(3)		楷書と行書の特徴	61.3				○		
【二】	問一	登場人物「くるみ」の心情	77.3				○	・問三は実際の教室で行われる話し合いの場面において、登場人物の心情の変化について考える出題であった。(1)では「くるみ」の人物像について波線Xの直前にある「意思」を抜き出した誤答が多かった。 ・(2)では作品の展開と深くかかわりのある登場人物の設定について、本文中の言葉を手がかりに的確に理解することが必要である。 ・(3)では本文中の描写の効果について、話の展開を踏まえ考える力を確認したが、正答率が低かった。波線Zの直前から「好きなふりをする必要はない」を抜き出した誤答が見られた。	
	問二	登場人物「キヨ」の心情	2点 66.9 1点 0.3				○		
			2点 37.2 1点 0.8				○		
	問三	(1)	登場人物「くるみ」の設定	3点 13.8 2点 26.7					○
				1点 12.4					○
		(2)	登場人物「キヨ」の言葉の意味	3点 13.8 2点 26.7		○	○		
				1点 12.4					
		(3)	描写の効果	3点 30.3 2点 1.5					○
	問四	表現の特徴	53.0				○		
	【三】	問一	内容の理解	2点 32.7 1点 1.2					○
3点 47.3 2点 2.9							○		
問三		文章の展開	22.5				○		
問四		文章全体と部分との関係	4点 4.2 3点 1.5 2点 23.7 1点 7.3				○		
			49.1				○		
	問五		文章の構成と展開	49.1				○	
【四】	問一	文語のきまり	88.2				○	・問三では登場人物の言動の意味を考え、心情を理解する力を確認したが正答率が低かった。 ・問五では文章の展開の仕方を考え、登場人物がどのような人物として描かれているかを理解する力を確認した。IIでは市兵衛がさまざまなことに知恵を働かせ、節約したり、儲けたりしようとしていると理解せず、「楽をしよう」としているという誤答が見られた。	
	問二	主語の読み取り	55.7				○		
	問三	② ④	登場人物「手代」の心情	29.3					○
				57.7					○
	問四	登場人物「市兵衛」の行動の理由	47.6				○		
	問五	I II	登場人物「市兵衛」の設定	53.4					○
2点 25.7 1点 6.3							○		
【五】	問一	構成の工夫や記述	84.1				○	・問三は、講演会の感想やお礼を卒業生に伝えるための方法を選択し、根拠となる事実を挙げながら、適切だと考える理由を記述させた。「自分の考えを根拠を明確にして書く力」や、「自分の考えについて論理の展開を工夫して書く力」を確認した。無解答率は過去2年間と比べ最も低いものの、提示された事実を繰り返すなど、適切だと考える理由の書かれていない解答が多く見られた。また、常体と敬体の区別ができていない解答もあった。	
	問二	必要な情報の読み取り	67.9				○		
	問三	論理の展開の工夫	6点 9.6 5点 11.3 4点 22.6 3点 21.3 2点 12.1 1点 5.1 無解答 7.7				○		
			84.1				○		
			67.9				○		
			9.6				○		
			11.3				○		

【評価の観点】 A:話す・聞く能力 B:書く能力 C:読む能力 D:言語についての知識・理解・技能

## 2. 知識及び技能について

- ① 漢字の問題では、「宣誓」の正答率が低く 34.2%であった。漢字の学習では漢字一字一字の音訓を理解し、文脈に即して意味や用法を理解しながら、語彙を増やすことも併せて行なうことが大切である。特に常用漢字の読みの学習では、話や文章の中において**文脈に即して意味や用法を理解しながら習得する**必要がある。また、乱雑な表記にならないためにも、書写の学習と関連付けることで**字形を整え、正確に読み書きできる**よう学習することを留意したい。
- ② 【一】問二(2)は「話すこと・聞くこと」の領域において、相手の立場や考えを尊重して話し合い、自分の考えを広げる力を確認した。正答率は 37.7%であった。相手の立場や考えを尊重するためには、相手が話した内容や、資料から得た情報を整理しながら、自分の考えと比較し考える必要がある。**話し合いの活動では、聞き手から話し手に対して、意見や質問、助言をもらう場面を設定する**よう留意したい。

## 3. 思考力、判断力、表現力等について

### (1) 思考力、判断力、表現力等を問う設問の意図(ねらい)

【三】問四では、**説明的な文章において文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する力**を確認した。

【五】問三では、受験生は、はじめに自身の考える適切な方法について書き、その方法を選択する際に根拠とした事実を示し、選択した方法が適切だと考えた理由を書く必要があった。この問題は、**自身の考えについての根拠や理由が明確に書かれているかどうかを吟味する力や、構成を考えてまとめる力**をみることをねらいとしている。

### (2) 解答結果とその分析

【三】問四の平均得点率は 19.0%であった。この設問では、小見出し②の文章の展開をふまえ、筆者がリノベーションを提示した理由についてまとめる必要がある。しかし、筆者の考え方の一部分のみを答えている誤答が多かった。文章の内容を理解する際には、**具体例が書き手の論理の展開の中でどのような役割を果たしているか考える**よう留意したい。

【五】問三の結果については、平均得点率 49.6% (R2: 42.4%) であり、無解答率は 7.7% (R2: 9.9%) であった。この問題では自分の考えが事実や事柄に対する適当な解釈から導きだされているかどうかを考える必要がある。また**説得力のある文章を書くための基本的な組み立て方として、中学校学習指導要領解説において、「初めに自分の意見を述べ、それを裏付ける事実を示し、自分の意見の正当性を示す書き方」**等が示されている。自分の考えを他者に伝える文章を作成する際には、相手や目的に応じて伝えたい事柄を的確に記述することはもちろん、どのような論の展開で記述すると効果的に伝わるかなどもあわせて考えることが求められる。

## 4. 指導の在り方について

### (1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① **〔知識及び技能〕**の各指導事項においては、**思考・判断し、表現することを通じて育成を図る**ことが求められている。話や文章の中で語句を使いこなせるようにしたり、情報を整理する活動を、話や文章で適切に表現したりする学習に取り入れるなど、指導の工夫が必要である。
- ② **〔思考力、判断力、表現力等〕**の各指導事項においては、引き続き育成を目指す資質・能力の明確化や適切な言語活動の設定が重要である。根拠の適切さを考えて、説明や具体例を加え、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫するためには、例えば、立場によって意見が分かれる問題や、様々な結論を導く話題を提示することが求められる。設定した言語活動や課題について、**事前に教師が実際にやってみることで、生徒にとって適切な学習活動としていくことが大切である。**

### (2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① **中学校学習指導要領に示される指導事項について理解を深める**ことはもちろん、義務教育段階での学習内容や習得状況への理解を深めることで、**生徒の学習経験や習得状況などの実態を把握して年間の指導計画を立案する**ことが必要である。
- ② 生徒の資質・能力を高めていくために、**どのような力を付けたいのかを明確に示すとともに、授業者・学習者双方による身に付いた力の振り返りが目標に基づいて行われるよう、指導と評価の一体化が図られた実践を行っていく**ことが必要である。
- ③ 「読むこと」の領域の指導に偏ることなく、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導においても**バランスよく実施する**ことが必要である。

# 社 会

## 1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)		評価の観点			特記事項(誤答例等)	
					A	B	C		
【1】	(1)	東南アジアの国の位置	40.9			○		(1) 日本と関わりの深い国については、その名称と位置を理解し、様々な観点から世界を捉える目安とすることが必要である。 (3) 世界各地の人々の生活の様子を考察するに当たって、宗教との関わりに着目する際には、主な宗教の分布について理解することが大切である。 (4) ③「EUの加盟」という誤答が多かった。主題を設けて世界の諸地域の学習を行う際には、その地域の特色とその背景について、因果関係を説明する学習が効果的である。	
	(2)	中国の地域的特色	50.5		○	○			
	(3)	イスラム教の分布と特色	2点	45.8	○	○			
			1点	7.9					
	(4)	①	イタリアとフランスの共通点	43.0		○			○
		②	ロシアの生活・文化	78.8		○	○		
③		EU	2点	53.7	○				
	1点		3.5						
(5)	多国籍企業	70.2				○			
【2】	(1)	時代区分	16.7				○	(1) 歴史学習の導入においては、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解することが大切である。 (2) 租庸調を混同する誤答が多かった。古代の国家の仕組みが整っていく流れは、政治面や経済面など多面的・多角的に考察する学習が効果的である。 (5) 歴史上の重要な場所については、なぜその場所で歴史的事象が発生したのか、理由について考察することが大切である。 (7) 近代の国際関係については、ヨーロッパ諸国間の対立などの世界の動きと、我が国との関連に着目して取り扱うことが必要である。	
	(2)	①	班田収授法	56.8					○
		②	古代の税の説明	2点	31.5	○			
	1点			26.7					
	(3)	鎌倉新仏教	60.9		○		○		
	(4)	千利休	78.5				○		
	(5)	織田信長の拠点の位置	41.9			○			
	(6)	参勤交代の説明	2点	43.1	○				
			1点	31.6					
(7)	近代の国際関係	50.9		○	○				
(8)	大正時代の特色	49.5		○		○			
(9)	小麦の輸出量	29.1			○	○			
【3】	(1)	効率と公正	80.3		○			(1) 対立と合意、効率と公正など現代社会を捉える見方や考え方の基礎を理解することは、公民的分野の学習の導入として必要である。 (2) 日本国憲法については、憲法に基づく政治によって、国民の自由と権利が守られ、民主的な社会が成立していることを、身近な事例を基に考察することが効果的である。 (4) 景気の変動については、歴史的分野の学習を踏まえて、国際社会の動向が、我が国の経済に影響を及ぼしていることを理解することが大切である。	
	(2)	① 基本的人権	74.9				○		
			3点	30.7	○				
			2点	25.7					
	1点	18.5							
	(3)	② 国会と内閣の関係	2点	40.3	○	○			
			1点	2.7					
(4)	経済成長率の推移と背景	46.3		○	○				
(5)	供給量と価格の関係	69.3		○	○				
(6)	消費者基本法	60.8				○			
(7)	ワーク・ライフ・バランス	69.3			○	○			
【4】	(1)	日本の世界遺産	23.9			○	○	(1) 文化遺産の位置は誤答が多かった。文化遺産は、それぞれの風土的・文化的特徴に目を向け、その価値を考えることが必要である。 (4) (5) 日本の諸地域の学習については、地域ごとに特色をまとめる学習が効果的である。 (6) ②地形図の読み取りは、位置や距離関係を考慮して事象を捉えることが大切である。	
	(2)	昭和初期の社会	24.1		○	○			
	(3)	A	日本国憲法の三大原則	73.2					○
		B	非核三原則	85.9					○
	(4)	日本の工業地域	49.0		○	○			
	(5)	中国・四国地方の気候	42.3		○	○			
(6)	①	政令指定都市	67.5				○		
	②	地形図の読み取り	78.4			○			
【5】	(1)	日米和親条約	47.5				○	(2) 模式図を読み取る際には、習得した知識や概念を活用して、多面的・多角的に特色を捉えることが大切である。 (4) 防災については、我が国には自然災害の発生しやすい地域が多いため、その対策には様々な立場の観点に立って考えることが必要である。	
	(2)	河川水系の模式図	37.6		○	○			
	(3)	防災対策の重点	72.8				○		
	(4)	減災・防災の備え	2点	66.7	○				
1点			20.1						

【評価の観点】 A：社会的な思考・判断・表現 B：資料活用の技能 C：社会的事象についての知識・理解

## 2. 知識及び技能について

- ① 基礎的・基本的な知識を問う問題は、文章中の穴埋めなど語句記述問題の平均得点率が67.7%と、全体平均(55.5%)よりも高い結果となった。社会的事象について理解するためには、基礎的・基本的な知識を確実に身に付けることが必要であり、語句を覚えるだけでなく、**語句の意味について説明する学習**を行うことが効果的である。また、誤字による減点が多かった。教科書の太字となっている語句については、正しく漢字で書けるようにしておきたい。
- ② 資料を活用する技能を問う問題は、平均得点率が57.6%と全体平均よりもやや高い結果となった。出題に当たっては、【4】(5)のように、読み取った内容からその特徴を考察したり、【3】(5)のように、資料の読み取った内容から別の資料と関連付けたり、【5】(3)のように、必要な資料を選択したりと、資料を読み取ることに加え、活用や選択の場面を意識した。日常の授業では、さまざまな資料を扱うとともに、資料の読み取った内容について、「なぜそのような内容となるのか」という**因果関係について考察する学習**を行うことが効果的である。

## 3. 思考力、判断力、表現力等について

### (1) 思考力、判断力、表現力等を問う設問の意図(ねらい)

中学校社会科では、資料を読み取り、事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現する資質・能力を育てることを各分野共通の目標としている。例えば【3】(3)で、有権者比率の変化を示した表から「なぜ1946年から2014年の間に有権者比率が急増したのか」を考察し、適切に表現する力を問うたり、【5】(4)のように、災害への対策について思考、判断し、災害時にできる「自助」の具体例について表現する力を問うたりする文章記述問題を7問出題している。また、資料に当てはまる内容を思考・判断する力を問う記号選択問題を6問出題している。

### (2) 解答結果とその分析

文章記述問題の平均得点率は54.5%と全体平均よりも少し低い結果となった。その要因としては、資料を適切に読み取れていないことや、資料と関連した既習知識を引き出せないことがあげられる。適切に表現するために、**どのような要素が必要か判断する力と、既習知識と結びつけ、筋道を立てて考える論理的思考力**が必要である。また、記号選択問題の平均得点率は53.5%であり、全体平均よりも少し低い結果となった。資料から読み取った内容と、選択肢を適切に組み合わせるためには、記述問題と同様に、知識を結び付ける論理的思考力が必要である。日常の授業における取組の工夫が求められる。

## 4. 指導の在り方について

### (1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 生徒が疑問を持ち、「解決したい」「話し合いたい」と思えるような学習課題を設定し、事象を多面的・多角的に考察し、判断するとともに、表現する過程を重視した**問題解決的な学習を行う**必要がある。そのためには、単元全体を見渡して授業を構想することが大切である。
- ② 単元指導計画を作成する際には、単元ごとに「身に付けたい力」を整理し、それを毎時間の授業にどのように位置付けるかを明確にすることが大切である。また、問題解決的な学習をするために**基礎的・基本的な知識や地図・グラフ等の資料を活用する技能を確実に身に付ける**ことが必要である。
- ③ ゴールをイメージして授業を組み立てることにより、資料や発問の生成が可能になることから、最終的にどのような言葉を生徒から引き出したいのかをあらかじめイメージしておくことが大切である。**評価問題をあらかじめ作成**した後、授業を構想することも効果的である。

### (2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中学校教科書の内容について理解し、その内容を**生徒がどれだけ身に付けているのか実態を把握**した上で、指導計画を作成することが必要である。
- ② 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けるとともに、授業時に発問を考えたり、資料を読み取ったり、発表したりするなど、**思考力、判断力、表現力を育成する場面を設ける**ことが必要である。
- ③ 中学校社会科の学習を踏まえ、**各科目の特質と相互の関連性を考慮**しながら、世界や日本の歴史的事象や地理的事象、現代社会の諸事象について考察し、その内容を説明したり自分の考えを論述したりすることを通して、社会的事象についての見方や考え方を育むとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を一層深めることが必要である。

# 数 学

## 1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点			特記事項 ([ ]内は誤答例)	
				A	B	C		
【1】	(1)	① 正の数と負の数	97.9		○		①～⑤の基礎的・基本的な計算の技能の正答率は高かった。 計算の技能を学ぶ際には、原理・法則を適切に使うことで、数学的な処理の仕方が導き出されることを理解する学習活動が効果的である。	
		② 正の数と負の数	89.1		○			
		③ 文字式の計算	88.1		○			
		④ 文字式の計算	82.9		○			
		⑤ 平方根の計算	83.6		○			
	(2)	二次方程式	73.7		○		二次方程式を学ぶ際、因数分解、解の公式のどちらを用いるのかを判断する学習活動が必要である。	
	(3)	一次方程式	76.9		○		文字を含んだ方程式に関する問題であったが、方程式の解の意味を理解しており、計算の技能の正答率は高かった。	
(4)	確率	66.8		○		樹形図や表を使って、地道に数え上げる学習活動に取り組むことが大切である。		
(5)	円周角の定理	66.1		○		補助線を引いたりするなどして、円周角の關係に着目したり、様々な解法で実験し、考察する学習活動が必要である。		
(6)	平面図形の作図	2点 48.3 1点 25.2		○		基本的な作図の方法が、どのような場面で活用されるかについて考察することが大切である。 [点A, Bを中心とした2円の交点を点Pとする]		
【2】	(1)	関数 $y=ax^2$ の式の決定	82.6			○	(3)は△BECと△BDAに着目し、高さを手掛かりとして解決する問題であった。解決に向けて既習事項を手掛かりに考察したり、それを説明したりする学習活動が必要である。	
	(2)	一次関数の決定	65.3			○		
	(3)	関数 $y=ax^2$ の式の決定	7.7	○				
【3】	(1)	① 最頻値	66.6			○	②の説明については、割合でなく人数で比較したり、結論を書いていない答案が多く見られた。説明する際には、根拠と結論をしっかりと表現する学習活動が求められる。  [②9月は0.25で、11月は0.2だから]	
		② 記号 理由	資料の読み取り	71.5				○
			2点 34.7					
			1点 9.5 無記入 12.9					
	(2)	① 一次関数のグラフ	46.3			○	①は問題文の情報を正確に読み取った上で、グラフをかく問題であったが、原点を通る直線をかく生徒が多かった。 [① $y = \frac{3}{4}x$ のグラフ] ②はグラフを用いて求める方法を説明する問題であったが、式を用いて説明する生徒が多かった。	
		② ア イ	46.5			○		
		2点 27.7 1点 9.8 無記入 34.1						
【4】	(1)	規則性	89.1			○	規則性を見だし、一般化するために、情報を表を用いて整理することが大切である。一般化した後、文字式を整理していない生徒が多かった。 [② $1+3(n-1)$ ]	
	(2)	文字式	3点 49.3 2点 5.9			○		
	(3)	文字式の活用	23.2	○				
【5】	(1)	回転体の体積	48.3			○	回転体の体積を求め、体積の大小関係を考察する問題であったが、文字を含む計算に課題が見られた。(3)においては、2つの円錐の体積の和に気づき、相似に着目し、底面の半径や高さを求めることができなかった。 [① $\frac{1}{3}b^2$ ]	
	(2)	回転体の体積比	27.1			○		
	(3)	回転体の体積比	4.1	○				
	(4)	回転体の体積の大小関係	13.5	○				
【6】	(1)	三角形の相似の証明	3点 36.1 2点 5.8 1点 18.5 無記入 19.9			○	(1)の三角形の相似の証明においては、見通しを立てて、根拠を明確にした上で、正しい用語を用いて証明することが大切である。 [① 同位角が錯角、共通角が同位角など]  (2)ではひし形の対角線の性質を活用できない生徒が多かった。	
			① 三平方の定理	46.9				○
			② 三角形の面積比	0.1	○			

【評価の観点】 A：数学的な見方や考え方 B：数学的な技能 C：数量や図形などについての知識・理解



## 2. 知識及び技能について

- ① 「数と式」については、数や文字式の四則計算の基礎的な知識及び技能を問う設定についての正答率は高かった。平方根を含む計算や方程式の解法の手順について、確実な定着が求められる。
- ② 「図形」については、線分の長さや立体の体積を求めるために必要な要素を調べていく学習活動が求められる。
- ③ 「関数」については、基礎的な知識及び技能を問う設定についての正答率は高かった。日常生活や社会の事象に関する問題では、文章や表から必要な情報を読み取り、活用する学習活動が求められる。
- ④ 「資料の活用」については、与えられた情報を整理し、データの意味や特徴の理解、データの見方を考える学習活動が求められる。

## 3. 思考力、判断力、表現力等について

### (1) 思考力、判断力、表現力等を問う設問の意図（ねらい）

身近な事象を表やグラフを活用して数学的に解決する問題や、図形についての基礎的な知識及び技能を活用し、総合的に考察し処理する問題を通して、数学的な思考力、判断力、表現力等をみることにした。

- 【3】(2) 「エスカレーターと階段での移動について考察する問題」では、グラフを事象に即して捉え、解決の方法を表現することができる力をみるようにした。
- 【4】 「竹編みの正六角形の個数や竹の本数を考察する問題」では身近な事象の特徴を踏まえ数学化したことをもとに考察することができる力をみるようにした。
- 【5】 「直角三角形の回転体の体積に関する問題」では、一定の手順にしたがって数学的に処理するとともに、統合的・発展的に考えて数学の事象を捉えることができる力をみるようにした。

### (2) 解答結果とその分析

- 【3】(2)の①、②アの正答率は46.3%、46.5%で、グラフがかけた生徒は②アも正答している。しかし、グラフを用いて解決する問題では、論理的に説明することが不十分であった。授業において、答えを導くまでの過程を説明し伝え合う学習活動が大切である。
- 【4】(1)、(2)の正答率は89.1%、49.3%であった。(1)では実験を繰り返し6番目の正六角形の個数を求めることはできているが、(2)のように一般化することができない生徒が多くみられた。具体的な例から一般化したり、結果を振り返って発展的に考えたりすることが大切である。
- 【5】(1)、(2)の円錐の体積は文字を含んでいたため正答率は48.3%、27.1%と低かった。また、(3)は2つの円錐の体積の和を求める際に、文字式を処理する計算力が問われた。文字を用いて一般化することのよさを感じることができるとも重要である。

## 4. 指導の在り方について

### (1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 「数と式」については、全領域と深く関わり日常生活や社会においても様々な場面で使われている。そのため、**計算の仕組みを考察したり、具体的な場面で活用したり**することを通して、技能の定着が求められる。定着が不十分な場合には、**その都度取り上げて指導を繰り返す**ことが必要である。
- ② 「図形」については、**立体模型やICT機器の活用など、観察・操作・実験等の活動**を通して、図形を考察することが必要である。その際、定義・定理・性質の理解を深めさせるとともに、なぜ成り立つのかといった、**論理的に考察し数学的に表現する力**や、図形に対する見方や考え方を身に付けさせていくことが大切である。
- ③ 「関数」については、知識及び技能の習得とともに、**表、式、グラフなどを相互に関連付けて考察し、表現する力**を育成することが大切である。また、日常生活や社会の事象を関数と結び付けて捉え、その考察の過程や結果を数学的な表現を用いて説明する場面を設けることが大切である。
- ④ 「資料の活用」については、収集した資料を目的に応じて処理し、表や代表値から資料の傾向を捉えて、それを考察し表現する力を身に付けさせていくことが大切である。

### (2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 「算数・数学の学習過程のイメージ」（中教審答申）は、幼小中高を通して育成する数学の資質・能力を示している。この主旨に沿って、**中学校の学習内容や指導内容との系統性を踏まえて、付けたい力を明確にした授業が求められる**。また、学習評価やAIドリル等によって**生徒の学習状況を把握し、これを指導に生かす**ことによって、資質・能力の育成を効果的に図る必要がある。
- ② 授業では、資質・能力の三本柱を、**単元の中に意図的・計画的に位置付ける**ことが大切である。また、**結果を得るだけに留まらず、解決過程を振り返りながら**、数学的な見方・考え方のよさを見出させたり、得られた結果を基に批判的に検討し体系的に組み立てたり、既習の知識と結び付け概念を広げ深めたりする学習によって、これらの資質・能力を育成することが求められる。
- ③ 生徒が、**日常生活や社会の事象に対して、主体的に問題解決を図るような学習を取り入れる**必要がある。その学習の中で、事象を数理的に捉えることによって数学的な問題を見いだしたり、事象の特徴を捉えて数学化を図ったり、解決過程を振り返って得られた結果から事象の意味づけをしたりする力を育成することが大切である。

# 理 科

## 1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	分野	評価の観点			特記事項 (誤答例等)	
					A	B	C		
[1]	(1)	生物同士のつながり	93.8	生物			○	(3) 50gとする誤答が多く見られた。濃度の定義の理解が曖昧にならないよう、濃度の計算方法とあわせて身に付けることが必要である。 (6) 微生物が酸素を出す矢印を記入している誤答が見られた。微生物が有機物を最終的に分解して無機物にし、それを生産者が再び利用していることや、炭素が自然界を循環していることに生徒自身が気づくような学習活動が大切である。	
	(2)	生物の数量変化	85.2		○				
	(3)	溶液の調整	45.0		○				
	(4)	分解者のはたらき	55.0		○				
	(5)	菌類のなかま	56.8				○		
	(6)	物質の流れ	55.8		○				
[2]	(1)	音の性質	32.5	物理			○	(1) エを解答する誤答が多い。単元の導入において、身近なもの結びつけて興味関心を高めるような授業展開が必要である。 (3) 「対照実験になっていない」という具体的な理由のない誤答が見られた。変える条件や変えない条件を意識した上で解釈・考察し、説明することができる力が求められる。 (4) ①「0.004Hz」の誤答が見られた。計算に終始するだけでなく振動数の定義を正確に理解する等の学習活動が必要である。	
	(2)	① 音の振幅	86.0				○		
		② 音の大きさ	60.3		○				
	(3)	対照実験の計画	2点		48.9	○			
			1点		6.3				
	(4)	① 音波の振動数	15.4						○
② 音波の波形		72.1		○					
(5)	超音波による距離の測定	33.6		○					
[3]	(1)	実験方法の考察	87.0	地学	○			(2) 身近なものに関連付けて考察できるかを問うた。火山についての実験や調査を通して、火山の形や噴火活動の違いが生じる要因を、マグマの性質と関連付けて相対的な視点で捉える力が求められる。 (3) 実験結果を得るだけで終わらず、課題に対する振り返りまでの過程を問うた。マイクロモデルの実験などを通して、自然現象を説明する学習活動が求められる。 (6) 柱状図の作図を通して、理科の見方として時間的・空間的な視点が持てるかを問うた。自然の事象・現象を質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関連付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考える学習活動が必要である。	
	(2)	① 噴火のしくみ	78.9		○				
		② 噴火のしくみの考察	71.7		○				
	(3)	火山の形とマグマ	61.4		○				
	(4)	かぎ層	2点		53.8				○
			1点		0.1				
(5)	火山灰	2点	66.9	○					
		1点	3.2						
(6)	柱状図の考察	2点	51.9			○			
		1点	0.4						
[4]	(1)	化学反応式の作り方	29.5	化学			○	(1) 反応式の両辺で元素の種類と原子の数が異なる誤答が見られた。反応式を暗記によらず、化学変化に関係する原子や分子の種類や数を捉えることが大切である。 (2) 実験結果を整理する上で、軸に適当な数値をとり、正しくグラフに表す学習活動が求められる。データをグラフに表すことにより規則性を見いだすことが大切である。	
	(2)	化学反応の量的関係におけるグラフ図示	2点		44.6		○		
			1点		9.9				
	(3)	反応余剰物の確認方法	53.2				○		
(4)	① 炭酸水素ナトリウムの割合	27.2		○					
	② 化学反応に必要な量	7.4		○					
[5]	(1)	① 気圧と風の関係	53.2	地学			○	事象や概念等に対して実験結果から考察したり、考察をもとに現象を説明する表現力が求められる。 ③ 夏の季節風が吹く向きを選択する問題の正答率は高いが、その理由を正確に答えられていない。知識として身に付ける際には、なぜそうなるのかといった興味関心をもとに理解を深めるような学習活動が必要である。	
		② 温度と風の関係	66.2				○		
		夏の季節風の向き	68.9		○				
		③ 夏の季節風の向きの理由	2点		35.6				
	1点		4.2	○					
	(2)	① 慣性の法則	74.6	物理	○			① 「等速直線運動」という誤答が見られた。似たような現象を混同しないよう、理解を伴った知識を身につけるような学習活動が必要である。	
		② 力学的エネルギー保存則	60.1				○		
		③ 発電とエネルギー	74.0		○				
	(3)	① 電池の仕組み	88.3	化学	○			② 電子を⊖と表記しない誤答が見られた。自然現象をモデル化して表現することや、モデル化を通して自らの考えを表現する等の学習活動が必要である。 ③ 「化学電池」という誤答が見られた。語句を適切に用いて文章を作成する等の学習活動が必要である。	
		② 電池の化学反応式	21.2				○		
③ 燃料電池		2点	43.0				○		
	1点	0.7							
(4)	① 鳥類の分類	78.3	生物			○	動物の分類については共通点や相違点に基づいて分類表などを作り、その表を用いて、様々な動物がどの仲間に分類できるかを考えるなどの学習活動が求められる。		
	② 相同器官	72.5				○			
	③ 節足動物の成長	2点		49.0					
		1点		0.9	○				
④ 軟体動物の特徴	75.4				○				

【評価の観点】

A : 科学的な思考・表現

B : 観察・実験の技能

C : 自然現象についての知識・理解

## 2. 知識及び技能について

- ① 基本的な知識を問う問題は正答率が高かった。しかし、【1】(1)、【3】(4)、(5)については、食物連鎖と食物網、かぎ層、偏西風と季節風に関する知識が正確に身に付いていない。基本的概念を曖昧に理解している生徒が多く、他の似た知識と混同している。複数の事象の因果関係を捉えることで概念形成を図るなど、理解を深める学習活動を大切にしたい。
- ② 【1】(6)では、酸素と二酸化炭素の流れを適切に図示することや、【4】(2)では縦軸に適切な数字を記入してグラフに表すことが身に付いていない。生態系における物質の流れのような大きな現象を図示する技能は、**情報を整理して科学的概念を形成する力**につながる。また、自然界における**規則性を見だし表現する力**につながるような、実験結果を整理して**グラフにする技能**を身に付ける学習活動が求められる。

## 3. 思考力、判断力、表現力等について

### (1) 思考力、判断力、表現力等を問う設問の意図（ねらい）

【2】(3)では、音の高さの規則性を見いだすための実験計画を立案して表現する力を問うた。【2】(4)では実験結果を比較し、科学的な概念を関連付けて考える思考力、【4】(2)では、測定結果のグラフに表すなどして、反応する物質の質量に関する規則性を見いだすとともに、(4)では化学変化の条件の違いを考察する力を問うた。【5】(1)では季節風が吹く理由を身に付いた知識を基に、考察し、正確に表現できる力を問うた。

### (2) 解答結果とその分析

正答率は、【2】(3)は48.9%、【2】(4)①は15.4%、②は72.1%、【4】(4)①は27.2%、②は7.4%であった。実験を行う場面では、課題を自ら発見したり、その証明に必要な実験計画を考えたり、必要に応じて振り返ったりするなど、探究の学習過程を踏まえた活動が求められる。音の性質を考える学習では、観察記録などの**資料を基に、楽器のしくみと関連付けたりモデル化したりして考察**することが必要である。対照実験という知識はよく身に付いているが、どのような目的で、どのような場面で、どのように用いられるのかなど、科学的な見方や考え方を働かせて、対照実験の概念を正確に身に付ける学習活動が必要である。季節風を考える学習では、**実験結果を分析、解釈し、既存の知識を関連付けて導きだした自らの考えを表現することで、概念形成を確かなものにする**ことが求められる。

## 4. 指導の在り方について

### (1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 観察や実験の結果を考察する際に、科学的な見方や考え方を働かせ、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点でとらえ、比較したり、関連付けたりする活動を授業内に取り入れる必要がある。
- ② 予想や仮説を立て、検証するための**観察・実験を計画する学習活動**の充実が求められる。その際、**課題解決の見通し**が明確になる実験を計画できるようにすることが大切である。
- ③ 観察・実験の結果を**分析して解釈する学習活動**の充実が求められる。その際、観察・実験の結果を予想や仮説と比較したり、習得した知識・技能と関連付けたりして説明できるようにすることが大切である。
- ④ 自然の事物・現象から**問題を見だし課題を設定する学習活動**の充実が求められる。その際、生徒自らが課題を設定して探究する学習活動を充実させることが大切である。課題に対して、個人で考えた後、グループで考えを共有する等して、**対話を通して改善**できるようにすることが必要である。
- ⑤ 分野ごとに学ぶだけでなく、複数の分野を関連付けて多面的な見方や考え方ができるようになることが大切である。また、**日常生活や社会との関連**を意識させ、科学を学ぶことの**意義や有用性を実感する学習活動**の充実が求められる。

### (2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 入学時における生徒の状況・実態に即した授業のねらいや身に付けたい力を明確にすることが必要である。
- ② 中学校の内容を適宜取り入れ復習した上で学習を進めるなどの、復習の機会を工夫する。
- ③ 教員との対話、生徒同士の対話、先哲の考えを手がかりにした活動等によって、意見を交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりして、**自分の考えをより妥当なものにする学習活動**を取り入れる。
- ④ 様々な知識が繋がって、より科学的な概念を形成することに向かっているか、また、新たに獲得した資質・能力に基づいた**科学的な見方や考え方を、日常生活における課題の発見や解決の場面で働かせているか**等の観点から、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。

# 英 語

## 1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項 目	正答率 (%)	評価の観点			特記事項 (誤答例等)		
				A	B	C			
【1】	A	1番	対話の内容に合うカレンダー	74.4		○	対話の内容を正確に聞き取る力が必要である。		
		2番	対話の内容に合う天気	80.3		○			
	B	1番	Whereで始まる疑問文に対する答え	47.3		○	何をたずねられているかを理解し、必要な情報を聞き取る力が必要である。		
		2番	Whereで始まる疑問文に対する答え	40.3		○			
		3番	What timeで始まる疑問文に対する答え	57.3		○			
	C	1番	対話の主題に対する聞き取り	65.6		○	対話の内容を理解し、複数の情報を整理する力が必要である。		
2番		話の要点に対する聞き取り	30.2		○				
3番		話の要点に対する聞き取り	32.6		○				
【2】	A	(1)	①	英文の読み取りと語の選択	61.9		○	会話の内容を正確に読み取る力が必要である。また基本的な語彙については、英文の中で何度も触れることを通して正確な理解が求められる。	
			②	英文の読み取りと語の選択	81.4		○		
			③	英文の読み取りと語の選択	74.9		○		
			④	英文の読み取りと語の選択	46.8		○		
	B	(2)	①	スピーチの内容に対する読み取り	53.4		○	必要な情報を正確に読み取り、整理する力が必要である。	
			②	スピーチの主題に対する読み取り	69.6		○		
			③	英文の読み取りと主張の選択	60.8		○		話の内容に対して、書き手の主張やその理由を正確に読み取る力が求められる。日頃から自分の主張やその理由を話したり、書いたりする学習活動を行うことが効果的である。
			④	英文の読み取りと主張の選択	56.4		○		
C	(3)	①	英文の読み取りと主張の選択	50.4		○			
		②	英文の読み取りと主張の選択	40.1		○			
【3】	A		5点	7.5	○		文と文のつながりを意識して、自分の考えを書く力が求められる。コミュニケーションの場面や目的を設定し、それに対する具体的な考えを書くなどの学習活動を行うことが効果的である。「英語での活動内容」について書かれていない解答が見られた。		
			4点	5.8					
			3点	40.5					
			2点	0.9					
			1点	4.6					
	無記入	16.7							
B	(1)	①	スライドに応じた比較級を使った表現	4.8		○	グラフ及び英文から、必要な情報を理解し、それらを正確に書く力が必要である。		
		②	スライドに応じた最上級を使った表現	20.0		○			
C	(2)		5点	5.6	○		日常的な話題について、自分の体験などを含めて説明する力が求められる。家庭や学校などの生活や行事などの体験を書かせる、そして発表する活動を積極的に行うことが必要である。		
			4点	3.9					
D	(3)		3点	24.0					
			2点	3.4					
E	(4)		1点	15.6					
			無記入	38.9					
【4】	(1)		下線部 This が示す内容	73.5		○	一語一語の意味や一文一文の解釈などの特定部分だけでなく、前後の時間の流れをつかんだり、中心となる事柄を正確に読み取る力が求められる。日頃から様々なタイプやジャンルの英文に触れる機会が求められる。		
			時系列に沿った行動の読み取り	37.0		○			
			下線部 This が示す内容	63.9		○			
			下線部 SDGs が示す内容	54.0		○			
	(2)		地球環境を保護するために、自分で出来ることの提案	3点	14.7	○	○	言語活動を行う際に、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じ、自分の考えを形成し表現するなどの具体的な課題を設定する工夫が求められる。具体的な活動内容が書かれていない解答が見られた。	
2点	3.4								
【5】	(1)		Whyで始まる疑問文に対する答え	35.0		○	あらすじや中心となる事柄などを読み取る発問や評価問題の工夫が求められる。		
			英文の内容理解	19.8		○			
	(2)		①	本に対する主人公の考えの把握	29.9		○	一語一語の意味や一文一文の解釈などの特定部分だけでなく、物語のあらすじや大切な部分などを正確に読みとる力が求められる。また、読んだ内容に対して、情報を分類したり、まとめた内容や内容を表現するなど技能を結びつけた学習活動を行うことが効果的である。	
			②	本に対する主人公の考えの把握	4.3		○		
			③	本に対する主人公の考えの把握	44.9		○		
(3)		④	英文の要点に対する読み取り	39.3		○			

【評価の観点】 A：外国語表現の能力 B：外国語理解の能力 C：言語や文化についての知識・理解

## 2. 知識及び技能について

### ① 外国語表現の能力

基本的な語彙、表現を用いて自分の考えや気持ちなどを書く力が十分に身につけていない。基本的な語彙、表現、文構造など運用度の高いものについては、コミュニケーションを実際に行う中で、繰り返し活用することを通して定着を図ることが求められる。

### ② 外国語理解の能力

「聞くこと」、「読むこと」に関しては、対話や文章の内容を正確に聞き取ったり読み取ったりして、必要な情報を整理する力が十分に身につけていない。その改善に向けて、指導においては、発問の工夫をしたり、様々なタイプやジャンルの英語に多く触れさせたりすることにより、話し手や書き手が伝えようとする情報や考えなどを場面や状況を踏まえて把握させることが必要である。

### ③ 言語や文化についての知識・理解

生徒が英語を表現する際に必要となる語彙は、話すだけでなく正確に書く力も求められる。さらに、コミュニケーションの場面や相手に応じて、どのような表現が適切かを考えて用いることも大切である。表現しようとすることを生徒が自ら考え、ふさわしい表現を選択させるなどの指導の工夫も必要である。

## 3. 思考力、判断力、表現力等について

### (1) 思考力、判断力、表現力等を問う設問の意図（ねらい）

思考力、判断力、表現力を問う設問については、【2】～【5】の中に配置したが、ここでは、特に【3】について述べる。

【3】では、中学校における言語活動を充実させた指導を踏まえた上で、「書くこと」について出題した。生徒が自分の意見や体験を、まとまりのある英文で表現することができるように、指定語数を設定した。(1)は、「英語部の新入生を歓迎するための英語を使った活動についての自分のアイデアを書く」設問であった。(2)は、「日本の伝統行事を説明する」設問であった。

### (2) 解答結果とその分析

(1)は、自分の意見、その理由そして具体的内容の説明など、一文で表現することにとどまらず、日頃からまとまりのある英文で話したり、書いたりする経験が求められる。(2)は日頃から日常的な話題について、自分が伝えたいことを文と文のつながりを意識しまとまりのある英文で書いたり、発表したりする経験が求められる。そのような学習活動を日頃から複数回繰り返して行い、必要な語句や表現を正しく使えるように定着させる必要がある。

## 4. 指導の在り方について

### (1) 中学校における今後の指導の在り方

中学校では、付けたい力を明確にし、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動や理解したことを表現したり伝え合ったりするなどの活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を養うことが求められる。そのために、以下の点に留意した指導が求められる。

- ① 単元など内容や時間のまとまりを見通して、単元で目指す生徒の具体的な姿や生徒に身に付けさせたい力を、CAN-DO リストに基づいて明確にする。
- ② 生徒が英語を使う機会を増やし、生徒の英語による言語活動を中心に授業を展開する。
- ③ 複数の技能を結び付けた言語活動を授業に取り入れ、4技能を総合的に育成する指導を行う。
  - ・聞いたり読んだりして得た情報や知識等を、自らの体験や考えと結び付けて感想や賛否、またその理由についてペアやグループで伝え合う活動をさせる。
  - ・相手を意識して自分の考えや気持ち等を正しく伝えたり、それについての意見を述べ合ったりする活動をさせる。

### (2) 高等学校における今後の指導の在り方

高校の授業では、高等学校学習指導要領の趣旨と中学校での学習とのつながりを理解した上で、以下の点に留意した指導が求められる。

- ① 年間、学期及び単元を見通して、CAN-DO リストに基づいて、「生徒が英語を使って何ができるようになるか」を設定する。
- ② 授業においてはコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた言語活動、複数の技能を結び付けた言語活動を授業に取り入れることが求められる。
- ③ 中学校との学びのつながりを意識するとともに、高等学校においても、支援や語彙・表現など段階に応じた指導により、コミュニケーションの目標を達成することが求められる。